

(一)芥子 白芥子  
(二)暗地囉 血なり、自身の血。

(三)安 和・高二本  
婆に作る。

(四)乳 乳糜。  
(五)乳 銀器に乳  
を盛るなり。

(六)阿濕縛 佉木  
流志本には菩提木  
といふ。阿説佉と  
同く柳なり。  
(七)緣生法身塔  
塔を作て其中に緣  
起法身の偈を納む  
百千 十萬。

羅窟の門に於て三十萬徧を誦すれば、一切の關鍵悉くみな破壊す、或は(一)芥子を(二)暗地囉と鹽糶とに和して一千八徧を誦して、護摩すること二十一日、日に三時すれば窟中の一切の宮殿悉く熾然として火燒え、阿蘇羅女燒かれて窟門を出で、行者を請して窟に入れて、囉(三)安藥・長年藥・諸の成就等の物を授與す、或は輪王佛頂の印を結んで彼の前に擲ぐれば、即ち彼れ地に倒る。又た麩麥を喫し(四)乳を飲んで三十萬徧を誦すれば長年の藥を得。又た月蝕の時、月を観ることなかれ、(五)乳を加持すること一百八徧せよ、大長年の藥を成せん。又た山頂に於て乞食して誦すること三十萬徧せよ、徧數滿し已んば三日三夜食はず、油麻を燒け、酪酥蜜相和して(六)阿濕縛二合 佉木を然いて以て護摩を爲せ、晨朝より起首めて乃至晝夜護摩を作せ、則ち囉惹を得ん。又た山頂に於て(七)緣生法身の塔を作り、或は舍利塔を作れ、舍利塔の前に於て(八)百千の蓮華を取れ、一華毎に誦すること一徧して一たび塔に獻せよ、則ち摩訶滿拏里の主たるを得ん、若し成就せずんば大邑の主或は鄉黨の主たるを得ん。  
又の法。蓮華を取て白檀香を塗て大河の水に入ること齋に至り、一徧を誦する毎に蓮華を加持して獻せよ、獻じ已て水中に擲げ、乃し百千數に至れ、大伏藏を獲得せん、

(一)三時 一千遍  
するなり。

(二)毗舍 商賈を  
いふ。

(三)輪陀羅 農民  
なり。  
(四)摩沙 天竺を  
婆羅門國と名く  
即ち天竺の小豆な  
り。  
(五)尾沙 毒藥な  
り、三種等分に和  
るなり。  
(六)芥子 黒芥子。  
(七)設咄囉 怨家  
なり。

若し捨施するも盡竭することなけん。又た敬愛成就を得んと欲はば、白芥子を油麻の油に和して(一)三時に護摩すること一七日に滿せよ、則ち囉惹を得、及び次の小王みな敬愛することを得ん。又た婆羅門をして敬愛せしめんと欲はば、白華を取て護摩せよ、赤華は刹利にせよ、黃華は(二)毗舍にせよ、黒華は(三)輪陀羅にせよ、鹽を以ては寡婦人にせよ、(四)摩沙 婆羅門 或は油麻を以ては一切の童女にせよ、羯囉尾羅の未だ敷けざる華を取て七日、日に三時に護摩せよ、一切の人において敬愛を得ん。又た糠を(五)尾沙に和して苦練の葉に和して護摩を作せ、設咄囉驅逐することを成せん。又た(六)芥子を以て護摩すれば(七)設咄囉を摧く。又た屍林の灰を以て護摩せよ殞せしめん。又た芥子の油を以て護摩せよ、一切の部多鬼敬愛せん。又た爵金を以て護摩せよ、一切の必舍支敬愛せん。又た印を結び眞言を誦して泮の字を加へよ、能く鬼魅を除く。又た觀羅斯の葉を以て燒けば鬼魅現じて語を下す。又た眞言の中に弱字を加ふれば毒に中る者迷悶するを、却て蘇ることを得。又た眞言の句の中に(八)匿 字を加ふれば毒行はれず。又た眞言の句の中に莫字を加ふれば毒蛇を制す。又た屍舍那の灰をして圓壇を畫せよ、毒蛇及び鬼魅を召し來たすに能く禁止せん。又た眞言の句の中に摩摩字を加ふれば能

(二) 孔雀の尾 一百八枚を一束とす

(三) 支 手足なり

(三) 油麻 白油麻  
なり。  
(四) 屈屢草 烏瓜  
なり。  
(五) 護摩 十萬遍  
するなり。

く口を禁す。又た真言の句の中に息の字を加ふれば悪星を禁す。又た真言の句の中に吒字を加ふれば利牙の者を摧く、速の字を加ふれば支分を損せしむ、底瑟姪二合底瑟姪二合を加ふれば、鬼魅を縛す、羯吒羯吒を加ふれば、即ち縛せらる、略乞沙二合略乞沙二合を加ふれば即ち護持せしむ、滿駄滿駄を加へ、或は囉駄囉駄を加ふれば喉を禁す。又た日蝕の時或は月蝕の時、孔雀の尾を持って、像の前に對して供養し、真言を誦し(三)孔雀の尾を加持し念誦して、乃し日月復するに至れ、此の孔雀尾を手を以て把つて揮曜すれば、能く種種の幻化を現じ、毒に中てらるゝ者をば蘇らしめ、能く種種の事業を成辦す。又た鹽を油麻に和して護摩すれば、設咄嚕をして鬼魅及び瘡を患へしむ。又た瞿摩夷を以て彼の人の形を捏して、刀を以て其の(三)支を斷すれば、彼れ即ち所斷の處に隨て便ち損す。又た一切種の柴・一切の華・一切の果・一切種の樹の膠を燒けば、所求の種種の財寶をしてみな得しむ。又た(三)油麻を燒いて護摩すれば所求の財寶みな得。又た(四)屈屢草を燒いて(三)護摩せよ、壽を増することを得。又た粳米を護摩せよ則ち兒を得。又た蜜を燒け、一切の人みな敬愛することを得ん。又た酥を護摩せよ、威徳を得ん。又た乳を護摩せよ息災を得ん。又た酪を護摩せよ増益を得。又た七日三時

(二) 大林 松柏。

(三) 誦す 面東に  
し法坐して誦す。  
(三) 其の頭髻云云  
此は俗人のこと  
なり、出家ならば  
髮鬘の角を結び之  
を呪すること一落  
又誦す。

(四) 劫波羅 觸膜。  
(五) 摩努沙 人なり。

(六) 心 肝なり。  
(七) 三金 金・銀・  
銅。

(八) 熟銅 赤銅。

に酥に和して一切の物を護摩せよ、大悉地を獲ん。我れ大成就の法を説かん、前の先行の法の如く、山の頂に於て舍利ある塔の前にして、三十萬遍を誦せよ、然して後に像の前に對して、稻穀の華を以て酪・酥・蜜に和して護摩せよ一千遍、則ち先行の法を成す、此の先行の法は一切の成就を求むるに通じて用ひよ。又た(二)大林に入て食せず百千遍を(三)誦せよ、徧數滿し已んば則ち(三)其の頭髻を結へ、即ち形を隠さん、其の髻を解かば即ち現せん。又た山の頂に上て面を日に向へて常に乳・麩麥を食して十萬遍を誦せよ、滿し已んば則ち形を隠すことを得ん。

又の法。左の手を以て拳に作て十萬遍を誦せよ、末後に則ち安怛但那を得ん。又た月蝕の時に當て(四)劫波羅を取て(五)摩努沙の髮を以て帚を作て、摩努沙の脂に搵して燒いて煙を以て劫波羅の中に薰せよ、黒糝を刮け取て加持すること一百八遍して取て眼に點せよ、安怛但那を得ん。又た摩努沙の(六)心を取て牛黃に和して丸に作て(七)三金を以て裹みて、或は黒月分或は白分に加持して念誦せよ、藥に聲あらば口中に置け安怛但那す。又た牛黃を取て加持して身に塗れば、持明成就を得、亦た最上の成就を得。又た日月蝕の時黃牛の酥を取て熟銅の器の中に置いて、(八)熟銅の筋を以て攪いて念誦せよ、

二〇 黄丹 鉛丹な

三相の現するを取れ、若し沸かば服せよ、聞持して忘れざることを得ん、煙あらば安  
 但但那を得ん、煙あらば虚空に飛騰せん、是の如く雄黄・二〇 黄丹・餘物を成就する等み  
 な三種の相を現すれば成就す。又た蘇路丹惹那を以て一千三波多護摩せよ、或は黑白  
 分に於て成就を求めんに、若し煙あらば安但但那せん、又た劔・輪・像・仗・黒鹿皮のご  
 とき、一切成就の物みな三波多護摩せよ、教に依て畫像の前或は像なくとも、或は舍  
 利ある塔の前、無益の談話を離るゝ處、河山寂靜の處に於て、三種の成就を修すべし、  
 一切の成就の中に於て最勝成就となることを得。又た壞せざる攝縛を取て、先づ澡浴  
 嚴飾を與へて佉陀羅木檄を以て釘ち繫けよ、白黒の二月に於て隨て一分を取て用ふべ  
 し、黒月の吉日に並に助伴あらば、善く護身を作して彼の胸の上に坐して、迷但羅の口  
 中に乳糜を寫して間斷せず念誦せよ、即ち其の迷但羅起たんと欲して即ち吐かんに、  
 熟銅の器を以て承け取て便食せよ、自身成就を得ん。又た金の絲を取て迷但羅の口中に  
 置け、即ち嚴具を吐き出さば即ち持明仙たるを得ん。若し鐵絲を以て彼の口中に置かば  
 即ち劔を吐き出さん。若し白芥子を彼の口中に置かば二〇 嚴具を吐き出さん。若し油麻  
 を彼の口中に置かば即ち本真言教の經夾を吐き出さん、みな持明成就を得、虚空に飛

三〇 嚴具 瓔珞な

二〇 動せば云云  
 第一相 若し云云 第  
 二相 亂脱  
 三〇 其の持明者  
 第三相の文なり。

騰せん。又た手を以て彼の迷但羅の口に按し、念誦して加持し、乃し三相現するに至  
 れ、二〇 動せば即ち語り意の所求の事をみな説け、長年藥を授與せん。三〇 若し起たば即  
 ち使者と成らん、三〇 其の持明者、三欲する所の三去らんと處には、彼の肩の上に乗て意  
 に隨ひて而も往いて持明仙たるを得ん。爾の時に世尊、復た金剛手菩薩祕密主に告げ  
 て言はく

祕密主汝聽け 廣せずして而も略して 普ねく通じて一切 佛頂等の成就を修  
 することを説かん

資少うして大利を獲るは 諸佛の所説なり 此の中に是の言を作さく 羯你迦

囉華と 及び蓮華の藥と 蘇嚕丹惹那とを取て 三金を以て之を裏んで 此の丸藥を作

るべし 當さに日月の蝕に於て 三種の成就を得べし 煖・烟・焔の次第なり 煖ならば

必ず敬愛を獲べし 烟あらば當に形を隠すべし 焔の相あらば騰空を成じて 吉祥大持明となるべし

一、三、二、四 亂脱

雷の震ふが如く聲を作し

旛華而も動搖し<sup>一</sup> 應さに知るべし成就の相なり <sup>二</sup>及び佛像動搖するは <sup>三</sup>若し不吉祥を見ば

成就を求むべからず 塗香華等を獻じて 數數當さに 息災護摩の法を作すべし

乃し七遍に至て 然して後に勝法を作し 窠塔波を作るべし 福を加して成就を求めよ

蜥蜴と及び鳥との鳴くを以て 成と不成とを觀すべからず 然して後に成就を求めよ 念誦を以て先と爲して

並に歸命すれば果を獲 福を作すこと有情のためにすれば 眞言必ず成就す 少福の愚夫の爲めには

多分にす爲れ是の人は 此に爲て福を増加す 成佛は悲を本と爲す 諸の有情を利益せんが

一、三、二、四 亂脱

故に眞言教を説く

天王・帝釋等

及餘の大威徳

纒かに誦すれば彼れよりも

勝れたり

<sup>二</sup>及び王宮に居在するもの <sup>三</sup>信に由て應驗を獲 成就者當さに獲べしとならば 端嚴にして而も常に作すべし

清淨修行の者 強ひて事を多くすべからず 此に由て心雜亂す 世間の人の劣慧にして方便なうして 諸の<sup>二</sup>合鍊の道に於て 縁を闕けば和合せす 諸の

藥と及び水銀と 倒するに由て壞して成せず 三種は微細なるが故に 功を施して益を獲す 若し伏藏を取らば

必ず王の怖畏あり 占相しても必ず疑を生ず 微細によて猶豫を生ず 醫術を以て<sup>三</sup>果を増長せんとして

長年藥を攝受すれども 眞言を持するに由るが故に 悉皆而も 長年等の果報を獲得す

是の如くの諸の技術は 過患無量なることあり 此を以て獲る所なく 最勝の福を獲ざるが如し

<sup>二</sup>合鍊 金銀を合鍊す

<sup>三</sup>果 壽命をいふ。亂脱



(二)印は下の護摩品に至て脱く。

の故に 亦た諸の魔羅を除かんとして

「今此の大明を説く 三 先佛の所説なり 諸の有情を利益す 二 是の無能勝の明は

若し常に憶念して 時に隨て等引に住すれば 彼の諸の魔障者 悉くみな除滅することを得

即ち眞言句を説く 爾の時に金剛手 祕密藥叉主 心に大歡喜を生じて

世尊 大覺智莊嚴を頂禮したてまつる 此の大無能勝の 是の明を我れ願くは

聽きたてまつらん。

爾の時に世尊、即ち大無能勝陀羅尼を説いて曰く 曩謨、囉但曩、二合 但囉二合 夜引

也、一 曩莫、薩嚩沒咤、胃地薩但吠二合 毗藥、二合 但你也二合 他、去聲 爾寧爾寧、四

爾曩嚩嚩、五 但他聲 曩多、娑賀惹低、六 薩嚩沒咤、曩囉尾誦、七 阿目岐、岐曳の 阿鉢

囉二合 底の切 賀低、九 阿波囉爾誦、十 尾囉而、尾誦多婆去、十一 尾摩黎、十二 你捺

囉二合 娑囉二合 吠、婆嚩底曳、十三 迦彌嚩、娜以誦、十四 奴囉地誦謎、薩丁也、二合

曩囉俱黎、十五 摩囉嚩囉、尾那設寧、十六 舍枳也二合 母寧、悉誦二合 惹娑、嚩隸曩、

十七 尾哩曳二合 拏、略乞灑二合 略乞灑、二合 麼麼、<sup>某甲</sup>薩跋哩嚩覽、<sup>去聲</sup>薩嚩多、<sup>入聲</sup>

薩嚩迦覽、二十 囉惹主嚩娜迦、虞哩也二合 設寧、二十 尾<sup>(二)</sup> 窟僧賀、弭也二合 乞囉、二

娑哩二合 薩哩二合 跋、二十 禰嚩、彥達縛、曩誦、藥乞灑、二合 囉利娑、弭底哩、二合

比舍左、步多、阿鉢娑麼二合 囉、二十四 布單曩、二十五 羯吒布單曩、二十六 迦區<sup>去聲</sup> 嚩那、

二合二 鳩娑多二合 囉迦、二十 謎但羅訖哩二合 丁也、二合 羯麼拏、滿但囉、二合 麼誦、

祖嚩拏、二合 麼誦、拏枳爾庚、二合 烏祖賀囉、廿三 薩嚩婆也、訥瑟跢、二合 鉢捺囉二

胃、鉢薩侯、波也細瓢、三十 曩謨窠視、二合 婆誦嚩底、三十 烏捺囉鼻爾拏、廿七 你哩

你哩、廿八 囉但那二合 俱攞娑、摩失哩二合 誦、廿九 弭里弭里、四十 阿迦捨駄視、虞左

嚩、四十一 企里企里、四十二 薩嚩但他曩多哩也、二合 室囉二合 迦、楞迦囉步誦、四十

泥尾捺<sup>の切</sup> 尾也二合 哩也、二合 沒囉二合 憾麼、二合四 但他曩多、努曩誦、五十 尾濕嚩

二合 進底也、十六 嚩囉波羅訖囉二合 謎、七十 曩謨婆誦嚩底、波囉爾誦、四十 略乞灑

二合 略乞灑、二合 麼麼四十 薩嚩訥瑟跢、二合 鉢捺囉二合 (三) 吠、無計 波也細毗藥、二合

娑嚩引 訶引五

是の陀羅尼を説いて 世間に悉くみな聞かしむ 是の大無能勝は 能く一切の

魔を壊し

(三)吠 流志本に  
は(七音の切)に作

能く勤勇力を増す 則ち三昧の形に住するを 名けて無能勝と爲す 彼の大心  
明を説かん

大力にして極勇猛なること 前の明に易らざる 是の心は世尊説きたまふ。

(二) 餘 流志本に  
喉地(草夜)の切、二  
合)に作る。

眞言に曰く 曩莫颯哆喃、三藐三沒駄、俱致喃、引薩失囉二合 嚩迦僧伽喃引薩嚩謎囉  
婆也底哆喃、三尾波尸曩、薩誦二合 惹娑、(二) 鞞左、始企曩、四薩但二合 他、尾濕嚩二  
步、入鉢囉二合 枳孃二合 也制餞、訖囉二合 俱孫那、六嚩隸曩左、羯諾迦牟尼、七始乞  
灑二合 也、迦捨波寫、入侯孃囉比、舍枳也二合 僧賀寫、九弭里曳二合 拏、塞嚩二合 娑  
底、二合 婆嚩觀、十摩摩、薩嚩薩但嚩二合 難者、十一 薩嚩婆庚、鉢捺囉二合 吠同上毗  
藥、十二 但你也二合 他、引十 惹曳、十四 尾惹曳、十五 惹演底、十六 尾惹演底、十七 阿  
爾單惹曳、十八 惹演底、十九 阿爾誦、二十 阿鉢囉二合 爾誦二十 摩囉枳孃、二合 鉢囉二  
末娜寧曳、娑嚩二合 訶引二

此の心眞言を説く 應等正覺の説なり 七佛の世尊 諸の功德を顯揚して  
即ち是の大明を説いて 修行者を利益したまふに 諸の世界普遍くして 六種  
に震動す

一切の魔の宮殿 悉くみな大いに震動しき。

金剛手此の眞言の句は、一切諸佛の所説なり、衆生を利益せんが故に、秘密主或は輪  
王の眞言を持誦せん者、或は餘の眞言を持せん者は、此の眞言を以て加持して縷を結  
び、或は袈裟の角を結び、或は頂髪を結び、或は樺皮の上に書して頸臂に帶せば、彼  
の人速疾に成就を得易く、本尊速に其の前に現せん、念誦の時若し能く憶念せば、金剛  
手我れ見す天世・魔世・沙門・婆羅門衆の中にもあれ、若し此の眞言を以て加護せんに、  
若しは穢者若しは淨者の前にもあれ、若しは人若しは非人或は魔子或は必含遮或は毗  
那也迦、或は藥叉或は鳩槃荼或は羅刹婆、或は餘類の有情の來て障礙せんと欲せんに、  
是の思惟を作さば(二) 阿吒迦嚩底王の宮に於て入ることを得じ。若し此の明の、清淨の  
修行者に遠越することあらんに、彼れ悉くみな金剛の種族及び自の種族並に親族朋友  
に違逆す、彼こに住せしむべからず、金剛手此の明眞言は大威力あり、一切の事業に  
於て加護を作すべし、應供正遍知印可したまひ、一切の諸菩薩印可したまふ。

證學法品第十二

爾の時に世尊、無盡の法界を知らしめし、一切の諸障を除遣せんとして、復た金剛手

(二) 阿吒迦嚩底王  
宮 毗沙門の宮殿  
なり。

(一) 苾芻云云 二百五十戒。  
 (二) 苾芻云云 具足大戒。  
 (三) 鳩婆塞迦云云 五八戒なり。  
 (四) 三歸依 以下十善戒を受くる等の意は、大日經受方、學處品に同なり。  
 (五) 八十具の人は、三昧耶戒を授くるに堪へたる人の故に之を稱歎し給ふ。  
 (六) 六念 佛・法・僧・天・戒・施の化教の六念。  
 (七) 一切 財等なり。

(七) 薩提の字か。

菩薩に告げて言はく、金剛手若し善男子・善女人・苾芻・苾芻尼。若し佛頂の不思議印三摩地を修習せんと欲はば、彼の苾芻は(一)苾芻の律儀に住して慇懃に而も護持せよ、苾芻尼は(二)苾芻尼の律儀に住し、鳩婆塞迦は(三)鳩婆塞迦の律儀に住し、鳩波斯迦は鳩波斯迦の律儀に住せよ、若し是れ彼の善男子、眞言行を修せん者は、彼れ先づ曼荼羅に入り(四)三歸依を受け、菩提心を發すべし、十善業道を成就して、説の如く眞言行を修し極めて善く作意すべし、善友に親近し承事して常に(五)六念を修し、法界は虚空の自性の如しと觀すべし、善く修習して般若波羅蜜の境界に入るべし、此の觀行に於て欺誑せず放逸ならず、善く三世の佛菩薩の行行に隨て阿蘭若に住して(六)一切身命を顧戀せざる應し、三時に善く三歸菩提心律儀戒を受く應し、聞く所の甚深の佛法をして憶持して修行し、善く四攝を修し、如來の窻視波の前に於て常に曼荼羅を塗り、眞言の儀軌に於て常に精勤し、窻視波を作り身口に專修して修行し、怒らず躁がや掉擧せず、口に多語せず雜亂語せず、他を欺誑せず、諸の有情に於て常に恭敬愛樂の心を行じ、善く如來密意の説を知るべし、我略して説かん、修行者は常に勇猛大精進の意を懷いて一切有情を佛善(七)薩道に安立すべし、若しは佛頂王の眞言行を修せん者、若しは餘の

(一) 自律儀 四衆各の律儀、謂く五八十具なり。

(二) 身は云云 金輪は日輪に住し給ふ故に。

眞言行を修せん者も、所説の功德の如くなるべし、善く修行し成就すべし、方廣經典の所説の眞言行の如く、當さに修習すべし、各の(一)自の律儀に住して善く護持す應し。復た金剛手に告げたまはく、説の如く佛頂の眞言行を修する者已に成就を得つれば、(二)身は初出の日輪の如く、眞金瓔珞臂釧あり、閻浮檀金色に作し、一切の嚴具を以て其の身を莊嚴し、天の妙衣を著し諸の相好を具し、縱廣周ねく停しく身相奇特にして、百千の光明莊嚴し圓光一尋にして日輪を超過し、一切の色身を映奪せん。復た次に金剛手、成就持明仙は纔かに見るに、一切衆生をして喜悅せしむること、猶如し如意樹の一切の所求を滿さしむるがごとし、復た次に金剛手、輪王佛頂を成就する菩薩、地獄に至て種種の天の妙飲食を雨らし、亦た能く一切衆生の所須を滿して、希望する所あらばみな満足することを得しむ。我れ略して彼れに大威徳あることを説く、金剛手、輪王の眞言を成就する者は、みな一切有情の意樂を滿し、心に念を起すに由て則ち満足せしむ、彼の輪王の成就を得るの人は、十地に住する菩薩も敢て其の教令に遠越せず、金剛手、此の一字輪王の眞言は、一切の眞言の中に王たり、大明王主たり、若し修行すれば一切の業障を滅除し、亦た一切の惡趣の業を滅除す、此の眞言を成ずることを



得れば、一切の神通悉くみな現前す、纔かに瞬目の頃あひだに色究竟天に往き、一切の佛・菩薩・縁覺・聲聞稱讚し歡喜し、一切菩薩の行を得、餘の世界に於て自在に遊行して、一切有情に於て其の意趣に隨て種種の音聲を以て而も爲めに法を説く、乃至我れ略して説く、無量無邊の世界の有情に於て、希奇の行色を以て最勝廣大に成就を獲得せしむ。爾の時に如來伽佉を説いて曰く

種種に鬪戰する空自在 寶性を裁する如くして照曜す  
青蓮華池に在て開くるが若く 彼の勝驍勇威光の色

彼の人悉くみな世間に超え 毗紐の眞言も及ぶべからず。

爾の時に世尊、復た金剛手祕密主に告げて復た伽佉を説いて曰く

略して普通の法を説かん 祕密の地に居する人 明者先行の後 相の最勝を指しせん

地方に三種を説く 卑濕と及び乾燥と 並以に高原となり 明天の所居を指して

名けて曰ふて勝地となす 中方に三種を説く 成就を求むるの地 みな三種に

二種々云云下の六句の意極めて解し難し。和本来に作る。  
地方に三種云云。流志本の意に云く。一には上地二には中地三には下地。淨不淨處は地の如く三種に亦是の如く三種に亦上とは天上に三の勝地あり。上の三と成る。中の三と大河の岸、海岸、山中。此の三は山悉地なる。下の花ある處、林に花多き處、淨屍陀林處、不淨是は下悉地と成るなり。

惡王云云此は行者住處を擇ぶ可きを明す。

處 時か。

攝受の義がことし。

通ず

智者觀察すべし 淨と不淨と兩つ併たり 天妙に復た三種 此の一の中なに於て

各の分て三種となす 河池と海と山王と 最勝成就と稱す 淨と不淨の徳と俱なり

中成就の處と名く 若し是れ屍林の地をば 是を不淨の處と名く 此の教は一

切の處において 成就の處に三種あり 惡王と賊と飢儉と 是の處には居すべからず 行者障難

あらば 彼の地に住すべからず 極寒と熱と雨との處 此の教に於て悉く制す 三時に念誦すべし

意樂を長養するが故に 三種の時を攝すべし。

復た金剛手に告げたまはく 祕密を遠離しては 成就すること得べからず 此

(二)息災等云云  
護摩爐各別に造る  
本據ない。

の經教の中に於て

成就するが故に密と説く

護摩の爐の差別

祕密にして作すべし (二)息災等の三

種

一處にしては作すべからず

若し一處にして護摩すれば

護摩の爐必ず謬らん

若し調伏の爐に於ては

息災を作すべからず 器の中に毒あるが如く

乳を盛らば必ず當さに壞すべし

審かに三種の事を觀せよ

故に三種の爐を説く 餘の教にも亦た三の

爐を説いて是の分別を作す

此に

於て之を用ふべし

是の故に相違せず 屈屢草クラコの芽を用る

牛酥を用ふることを許す

優曇鉢と天

木と

及び乳ある木と 並びに鬱金香を用て

三時に護摩を作せ

息災を求めんが

故なり

種種の利を獲得すると

若しは藥物を竊まれたらんに

黒油麻を用て

蜜に

和して常に之を用ふべし

及び波羅奢木と 及及び天木等と

白芥子を用て

護摩すべし而も稱讚す

諸の三種の法に於て

而も酥を用て護摩せよ。

爾の時に世尊釋迦牟尼、復た金剛手祕密主に告げて言はく、此の中に於て教王を修行せよ、有情を利益せんが爲めの故に、復た伽佉を説いて曰く

是の眞言明の 種種の大威徳を説かん

佛頂王の

種種の眞言明を修習するに

無量の大神特あり

並に佛眼等の明の

諸の義利を成就する

及及び印契等を

ば

我先に已に宣説しつ

普通の眞言王を以て

成就を求むる者に

果報を獲得せ

しめんが爲めの故に

我今印契を説かん

悉地を求むるがための故に

一類に多種を説かん

次第に

我今

普通の佛頂の印を説かん。

(二)二手云云  
通佛頂の印。 普

(二)二手を以て内に相叉へて拳に作り、二中指を豎て相合せ上の節を屈せよ、普通一切



挂へよ。

能く處所を淨むるが故に 此の摧壞頂を用ひよ 若し成就を求むる時は 此を  
結んで處所を護せよ

左の指を移して前の如くせよ 此の印を以て處を護せよ 是の諸の佛頂の心  
摧毀頂を用ふべし

用ふるに以て自ら灌頂するには 此の印を以て常に用ひよ 若し人此の印を得て  
は 能く念誦して室を淨めよ

常に澡洗の時に於て 修行者用ふべし 彼の人諸の障なきことは 是の眞言を  
誦するが故なり

次第にして而も之を用ひよ 本部の三昧耶 常に此の如くの印を用ふるに 眞  
言を修習する者

彼の人諸魔なし 此の佛頂の教に於て 佛是の如くの説を作す。

即ち前の印、二中指手の背の上に於て相押しして環の如くせよ。(朱)二中指右、左を壓し各の頭、  
左右の指の背の岐の間に壓てよ。 此れ無能勝頂なり 能く一切の罪を滅す 眞言は已に先きに説きつ 能く諸の

悪夢を除き

能く吉祥の事を成す 一 此の大印を用ふべし 二 寢臥せんと欲する時に當て 三 自身

若し常に誦すれば

能く種種の障を滅す 我今而も略して説く 廣説すれば無量なれども 此れに

於ては我略して説く

佛頂を修する者の爲めなり 佛眼の眞言と共に 而も誦して悉地を求めよ 一

切諸會の中に

我皆な已に先に説く。

諸の眞言を修して解脱すと説く 一切如來及び菩薩の

諸の安樂を得義利を獲ることは 精進及び大力を増加すればなり

有情を利益せんとして勤めて修習し 悉く一切の諸の疑惑を除くべし

是の故に金剛秘密主 諦かに聽け我汝がために宣説せん

我已に略して義の相應することを説く 此れは是れ秘密なり修明者

三時に護摩するに天木を以てし 油麻と及び酥と乳と相ひ和し

主 和本に王に作る。

身口及び云々  
護摩の時、火天  
と熾さ行者との身  
口意を三三平等な  
らしむる三平等觀  
なり、大日經護摩  
品の疏に委悉せり

他世 未來な  
り、大日經及び瑜  
伽論等皆附り。

此の歡喜眞言王を以てせよ 當さに成就眞言(主)を説くべし  
成就と念誦と及び護摩と 三種相ひ資けて而も演説す  
此の一一の修行の中に於て 念誦し修行するに三種を説く  
身口及び意と次第に説く 此を以て希望増益の事にす  
復た三種を説く當さに知るべし 天上と遊空と及び地居と  
彼の爲めに成を求むるに三種あり 爲て三種の種類を修す  
欲を求め及び財を求め 并與に法を求むるとを成就せんとして念誦するなり  
其の悉地に隨て勤勇を發すべし 一切の成就を求むるが爲めの故に  
善く法に依て制底を作り 正見あて大悲にして成就を求むべし  
彼の人成就すること亦た難からず 現世には勝安樂を獲得し  
他世には必ず解脱を獲ん 古昔の多人成就するを得ることは  
頂王の大奇特を修するに由てなり 我れも曾て此の佛頂王を修しき。  
爾の時に世尊釋迦牟尼如來、佛眼を以て無量無邊の世界を觀じて、復た金剛手に告げ  
て言ふに、伽佉を説いて曰く

諸教の外を指  
して諸教といふ  
但し顯教を指すに  
はあらず、此の教  
法は此の佛頂經  
を指す。

菴蒜云云 天竺は熱國の故に、是の如く制あり、又菴蒜はキノコの總名なり、多分毒あるが故に制す。

諸教の中に已に 律儀と軌則とを説きつ 能作と及び所作と 此の教法の中に於て  
當さに而も修行すべし 彼の聖甘露 軍荼利明王を以て 三部を修するに通ず  
我れ儀軌の法を説く 常に當さに修行すべし 彼の眞言の威に由て 一切の障  
悉く除くる  
明王經の所説の 忿怒王の印契 彼の中の諸の儀軌 悉くみな此の中に用ひよ  
菴蒜 蘿蔔及び菌子を食すべからず 油を以て身に塗らず 亦た油を食すべ  
からず  
所有の不淨の物は 餘教の中に制する所なり 一切食すべからず 悉地を求む  
る行者は  
常に身を淨むるを求むるが故に 無能勝の明を以て 五淨に用ふべし 半月半  
月に用ひ  
所餘の諸教の説 悉くみな而も修行せよ 此に於ては我略して説く 餘の經教  
の中に説くをば

此に於ては廣說せず 一切の諸の如來 眞言の法性を説きたまふ 諸佛及び菩薩

曾て修し亦た曾て説きたまふ 彼の眞言の形に住して 世間に遊行して 廣く

諸の義利を作したまふ

彼の劣慧の者のために 盡く其の威徳を説くに<sup>一</sup> 我今少分を説いて 其の功徳

を稱讚す

而も百劫の中に於ても 輪王の 奇特の法性を説くこと能はじ 此の功徳無盡

なり

無盡無所得なり 若し此の教王を得るものは 彼の人如來に同じく 亦た菩薩

に同じ

天蘇囉禮敬し 心に不退轉を得 常恒に是の如くなることを獲 先世に積集す

る所の

菩提の資糧に 皆な由れり、祕密主の 大威神の力を以て 當さに知るべし彼の

の有情は

一、三、二、四 亂脱

一、三、二、四 亂脱

常に清淨の身を得べし 若し此の教王を得ば<sup>一</sup> 悉くみな<sup>二</sup>一切 兩足尊を證成

することを得べし。

佛是の經を説き已りたまふに、金剛手祕密主、諸の大菩薩等・苾芻及び一切世間の天・龍・藥叉・乾闥婆等、佛の所説を聞いて歡喜し奉行しき。

音釋

顛乃頂所實莫計亭夜巨頤の切、  
顛の切、顛の切、謎の切、鞞の切、菌地單なり。

國譯菩提場所說一字頂輪王經卷第五終

國譯密教經軌第五奧付  
 大正十二年六月三十日印刷  
 大正十二年七月五日發行

大正十二年六月三十日印刷  
 大正十二年七月五日發行

國譯密教經軌第五奧付

〔非賣品〕

東京市小石川區關口駒井町四番地

編纂者 塚本賢曉

東京市牛込區若宮町三十五番地

發行者 伊豆宥法

東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷者 川邊多門

東京市本郷區湯島三組町八十一番地

印刷所 國譯密教刊行會印刷部

電話 下谷 九 貳 參 番



禁轉載

發行所

東京市牛込區若宮町三五  
 振替東京五〇一八七  
 電話半込二五二三番

國譯密教刊行會





終